

ボ ラ ン テ

# VOLUNCH

2017 活動報告誌



横浜市立大学  
ボランティア支援室  
学生スタッフ



2018年3月 発行

# Volunch(ボランチ)とは??

ボランティア支援室学生スタッフ「Volunch(ボランチ)」は部活でもサークルでもない有志団体で、**学生とボランティアをつなぐための活動**をしています。「Volunch」には、サッカーのポジションのVolante(ボランチ)と、branch(枝)の意味があります。サッカーのボランチのように私たち自らも積極的にボランティアに参加するとともに、皆さんと一緒にボランティアを盛り上げたい。そして学生として、枝のようにいくらでも自分を伸ばしたい。ボランティアを通して自分を成長させたい。「Volunch」にはこうした願いが込められています。

「Volunch」の目標として以下の2つを掲げて活動しています。

- ①**ボランティアの楽しさを発信し、地域と市大生をつなげる**こと
- ②**ボランティアに参加することで自分の経験値をあげる**こと

※「Volunch」メンバーは随時募集しています！興味のある方はぜひボランティア支援室へ！！

## 各プロジェクトの紹介



**ボラツアー**：ボランティア初心者のための企画です！2017年度は、月に1度の頻度で一般の学内生と学生スタッフでボランティアに出向きました。

**オリンピック企画**：2020年のオリンピックに向けて学生が取り組めるボランティアを模索しています。2017年度は、地域とのつながりを深めました。

**他大交流**：団体としての悩みやそれぞれの大学で行われている企画について**意見交換**をしています。2017年度は、神奈川大学、フェリス女学院大学と合同でフォーラムなどを開催しました。

# ボラツアーの活動



ボラツアー企画担当：藤原

2017年度から、市大生とボランティアをつなげることを目的に「ボラツアー」を始めました。毎月1つのボランティアを選んで、学生スタッフとともにボランティアに参加をしてくれる市大生を募集し、一緒にボランティアに参加します。市大生がボランティアを始める“キッカケ”作りとして立ち上げたプロジェクトです！！今年1年間を通して、まちづくり・イベント・福祉・環境・子ども等の様々な分野に関わるボラツアーを行いました。



4月：第12回鎌倉  
路地フェスタ



5月：よこすかカレー  
フェスティバル



6月：アマモ花枝採取会



9月：肢体不自由児者運  
動会in県立保健福祉大学



10月：Aozora Factory  
2017



11月：オールクリーン  
野島ビーチ



12月：横濱  
キャンドルカフェ2018

# オリンピック企画の活動



オリンピック企画担当: 中川

オリンピック企画班は2020東京オリンピック・パラリンピックに向けてボランティアを通して学生にそれぞれの将来やボランティアについての考えを深めてもらうための企画を作っているグループです。発足は2017年の夏と新しく、メンバーも少ない中で、少しずつ企画を作り上げていっています。

発足当初は横浜市立大学の学生に対してオリンピックボランティアの存在や、どのようにその機会が利用できるのかを伝えるための講師を招いた勉強会などを開催することを考えていましたが、現在では企画の幅がもっと広がってきました。

私達の企画の軸は大きく3つあります。1つは発足当初からある、勉強会。これは過去のオリンピックボランティア経験者を中心に様々な立場の方をお呼びして2018年度に開催する準備をすすめています。もう1つは他の団体と連携した文化交流のボランティア。すでに開催しているもので、横浜紙芝居普及会の方々と連携した紙芝居普及活動があります。最後は学生同士の交流を通じて作り上げるボランティアです。これはボランティア支援室の企画の柱の1つである他大学交流と連携して行う企画です。

## 日本伝統の創作紙芝居普及活動



2018年1月10日(水)、YCUスクエアの前で、地域の方々や学生に市大生が制作のお手伝いをした創作紙芝居をお披露目する会を開催し、スタッフや地域の方、学生など入れ替わり立ち代わり延べ約100名が観覧しました。オリンピックの開催に伴い、外国人の方々に日本への理解を深めてもらうために、キックオフイベントとして企画しました。

# 他大学交流の活動

2017年度は神奈川大学学生ボランティア活動支援室の学生スタッフと、フェリス女学院大学ボランティアセンターの学生スタッフと、団体としての悩みや企画作り、活動報告などを行うフォーラムを12月と2月に開催しました。これからも参加する大学が増えていく予定です。

他大交流企画担当:飯塚

## 12月の他大フォーラムにて

12月の他大交流は、3大学の学生が横浜市立大学に集まり、交流会を行いました。同年代で自分よりはるかにしっかりとボラ室の企画に取り組んでいる学生と交流できる機会を持ったことはとてもためになりました。個人的な感想ですが企画内の課題を解決する際にしっかり時間配分を設ける他大の学生を見て刺激を受けました。

大学による制度の違いなどもあり、それを聞くこともいい経験になりました。自分の所属するボラ室が他と比べてどんな状況に置かれているのかなどを自覚できるいい機会でした。初めての交流会でどうなるかと考えていましたが、とてもいい企画になりました。他大に親しい友人ができたのも大きな収穫になりました。



## 2月の他大交流会にて

2月の他大交流は、フェリス女学院大学で行われました。2回目の開催ということでより安定した関係に近づけたと思いました。大学の違う学生が混ざったグループでディスカッションをして、違いがあっても問題の根底は共通しているということが分かり、また環境の違う人たちの発想や着目点がとても新鮮でした。そして、他大学の先生がおっしゃっていた「多様性をいかに受け入れるべきか」という話はとても考えさせられました。モチベーションが個人によって違うことは当然で、それを強制的に高く保たせる必要はないという点から、その違いを受け入れた上で組織を回すためにどうしたらいいのかに着目するべきだという話でした。グループディスカッションでは、モチベーションを高める方法をみんなで話し合っていたので、とてもためになりました。また、前回よりも多くの他大の学生と仲良くなることができました。交流企画の担当者同士だけにとどまらずに交流をできる人がふえてよかったです。また、大学同士の交流をさらに盛り上げたいと考えられる機会になりました。



# 「第6回学生ボランティアフォーラム」 参加レポート

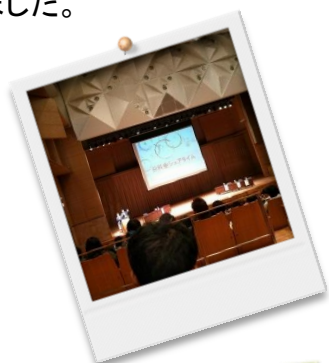
このボランティアフォーラムは、全国のボランティアに携わる大学生が国立オリンピック記念青少年総合センターに集まり、2泊3日で、ボランティアについての経験や思いを語り合う集会でした。

## はじめに

参加レポート執筆者：北田瑛美

2018年3月2日(金)～4日(日)の3日間、“ボランティア”という一つのキーワードになんと800人を超える学生が集まり、それぞれの想いを共有し、自分のボランティア活動を見つめ直したり、たくさんの素敵な出会いから今後のエネルギーをもらったりしました。

3日間の流れとしては、1日目に、シンポジストによる講演と学生同士のアイスブレイキングを行いました。2日目は、興味のあるボランティアの分野に分かれて分科会を行い、テーマに沿ってグループで話し合いを行いました。3日目は、分科会で話し合われたことを全体で共有し、最後にボランティアに長く携わっていらっしゃる登壇者のお話を聞き、集会を終えました。



## 分科会その①

午前中には、オリンピックに向けた活動や過去のオリンピックのことなど、登壇者のお話を聞きました。その中でも、一番胸が熱くなったのは、綿野さんのお話でした。綿野さんは現在杉並区で2020をテーマに子供たちとアートプロジェクトを行っています。オリンピックというとスポーツで地域を活性化させようという考えが思いつきがちですが、アートで2020を応援するといった考えにわくわくし、自分も2020に向けて大学近隣を元気づけられるような活動をしてみたいという気持ちが湧いてきました。



# 「第6回学生ボランティアフォーラム」 参加レポート



## 分科会その②

午後には、グループに分かれ、付箋と模造紙を使い東京2020に向けて、自分のやりたいことや社会をどう変えたいかなどについて話し合い、みんなで意見を出し合いました。特にグループの中で熱心に話したことが『パラリンピック』です。パラリンピックは、認知度や社会からの注目度が低い点で、課題として挙げられました。実際、パラ会場に観客をどう呼び込むかも課題になっています。しかし、話し合いの中で、「障害」という言葉の持つマイナスな意味だけでなく、様々な違いがあるという多様性に気付かされたり、より注目を集めることで、社会全体として生活が豊かになるのではないかとといった意見が出ました。

グループでは、どうやったらパラリンピックを盛り上げることができるかについて話し合いました。「パラスポーツの体験会をもっといろいろなところでやったらどうかな」「パラスポーツもライブビューイングをしている人々にみてもらおう」、「パラスポーツの授業を学校で取り入れたらどうだろう」といったような意見がたくさん出ました。大学生という同じ年代の人と『パラリンピック』についてたくさん意見を交換できたのはとても楽しく、全国に自分と同じように東京2020を盛り上げたいと考えている人がいるのだと思うと胸が熱くなりました。たくさんの素敵な出会いがあった分科会の時間は本当にあっという間で、終わってしまうのがとても寂しかったです。

## おわりに



3日目の分科会共有会で、分科会の参加者代表として、分科会の様子を800人以上の参加者の前で発表するという大役を引き受けることになりました。大勢の人を前にして緊張してしまいましたが、一緒に発表をした学生委員の方に和ませていただいて、オリパラ分科会の魅力を伝えることができました。

分科会では、オリンピック・パラリンピックは「スポーツを競い合うだけのイベントでない」ことや「文化・言語・身体・年齢・宗教を代表とする様々な違いを持つ人たちとの理解を創り出す場である」ということを深く学びました。



# その他の活動

## ボランティア実践講座

横浜市金沢区社会福祉協議会の方をお招きしてお話をしていただき、その後、実際に地域のボランティアに参加する講座でした。



## 金沢まつり花火大会募金ボランティア

毎年、8月に「海の公園」で開催されている、金沢まつり花火大会の運営費の募金を募っています。開始前と開始後の1時間ほど募金の呼びかけをしました。



## 中学生へのボランティア講座

かなざわっこ中学生ボランティアに参加する中学生を対象に、学生スタッフ2名のボランティア経験談を話しました。初めてのボランティア活動で、中学生の不安が軽減されるよう、また充実した時間を送ってもらえるように考えた発表を行いました。





# フォトギャラリー





Twitter



横浜市立大学ボランティア  
支援室学生スタッフ“Volunch”  
連絡先(メールアドレス):  
[stuvolun@yokohama-cu.ac.jp](mailto:stuvolun@yokohama-cu.ac.jp)

Facebook



横浜市立大学ボランティア支援室  
かなざわ八景キャンパス  
平日10:00~17:00  
TEL 045-787-2444  
E-mail [volunteer@yokohama-cu.ac.jp](mailto:volunteer@yokohama-cu.ac.jp)